

会員事業所景況実態調査令和5年10月～令和5年12月分集計結果
調査依頼数:581 回答数 81 回答割合:13.9%

令和5年度3回目の会員事業所景況実態調査の調査結果について下記のとおり報告いたします。
 調査結果については、今後の要望・提言活動や経営相談に活用してまいります。
 ご回答いただいた事業所の皆様、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

★DI値とは

各項目について、増加・好転(仕入単価:下落、従業員:不足)と回答した事業所の割合から
 減少・悪化(仕入単価:上昇、従業員:過剰)と回答した事業所の割合を減じた数値。
 ゼロを基準とし、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で
 景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

【質問 A】 前年同時期と比較した10月～12月の景況

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	22	32	25	79	▲ 3.8	▲14.5	10.7
	採算	12	38	29	79	▲ 21.5	▲ 18.3	▲3.2
	仕入単価	0	22	55	77	▲ 71.4	▲ 67.9	▲3.5
	従業員	34	42	1	77	42.9	33.7	9.2
	業況	16	35	28	79	▲ 15.2	▲ 19.3	4.1
	資金繰り	3	58	18	79	▲ 19.0	▲ 16.9	▲2.1
建設・建築業	売上	2	12	4	18	▲ 11.1	▲17.6	6.5
	採算	1	14	3	18	▲ 11.1	▲17.6	6.5
	仕入単価		6	11	17	▲ 64.7	▲76.5	11.8
	従業員	10	7		17	58.8	47.1	11.7
	業況	2	14	2	18	0.0	▲5.9	5.9
	資金繰り	1	16	1	18	0.0	5.9	▲5.9
製造業	売上	3	1	4	8	▲ 12.5	▲50.0	37.5
	採算	2	1	5	8	▲ 37.5	▲ 45.5	8.0
	仕入単価		1	7	8	▲ 87.5	▲ 50.0	▲37.5
	従業員	5	2	1	8	50.0	16.7	33.3
	業況	2	1	5	8	▲ 37.5	▲ 58.3	20.8
	資金繰り		6	2	8	▲ 25.0	▲ 41.7	16.7
卸・小売業	売上	6	7	3	16	18.8	0.0	18.8
	採算	4	8	4	16	0.0	▲14.3	14.3
	仕入単価		3	13	16	▲ 81.3	▲64.3	▲17
	従業員	5	11		16	31.3	28.6	2.7
	業況	5	7	4	16	6.3	0.0	6.3
	資金繰り		15	1	16	▲ 6.3	▲35.7	29.4
飲食・サービス業	売上	7	7	3	17	23.5	10.5	13.0
	採算	2	10	5	17	▲ 17.6	5.3	▲22.9
	仕入単価		4	12	16	▲ 75.0	▲50.0	▲25.0
	従業員	6	11		17	35.3	36.8	▲1.5
	業況	4	9	4	17	0.0	▲5.3	5.3
	資金繰り	1	13	3	17	▲ 11.8	0.0	▲11.8
不動産・その他	売上	4	5	11	20	▲ 35.0	▲23.8	▲11.2
	採算	3	5	12	20	▲ 45.0	▲28.6	▲16.4
	仕入単価		8	12	20	▲ 60.0	▲90.0	30.0
	従業員	8	11		19	42.1	33.3	8.8
	業況	3	4	13	20	▲ 50.0	▲33.3	▲16.7
	資金繰り	1	8	11	20	▲ 50.0	▲23.8	▲26.2

(全体)

売上、業況は前回より改善しており、売上はDI値が10ポイント以上改善している。一方、その他の項目では前回より若干悪化しているが、仕入単価は依然としてDI値が▲70ポイント以上と大幅に悪化している。従業員ではDI値が10ポイント近く悪化し、さらに人手不足感が強まっている。

(建設・建築業)

従業員、資金繰り以外では改善しているが、仕入単価は依然としてDI値が▲60ポイント台と非常にマイナスポイントが高くなっている。業況はDI値がプラスマイナスゼロまで改善している。一方、従業員では、DI値が10ポイント以上悪化し▲50ポイント台となり、さらに人手不足感が強まっている。

(製造業)

仕入単価、従業員以外は前回より改善しており、特に売上はDI値が40ポイント近く改善し、▲10ポイント台まで回復している。他の項目は改善はしているが、DI値は依然としてマイナスポイントが高めとなっている。一方、仕入単価はDI値が40ポイント近く悪化し、▲80ポイント台まで悪化している。従業員では、DI値が30ポイント以上悪化し人手不足感がさらに強まっている。

(卸・小売業)

仕入単価、従業員以外は前回より改善しており、特に資金繰りはDI値が30ポイント近く改善し、売上、業況はDI値がプラスに転じ、採算はプラスマイナスゼロまで回復している。一方、仕入単価はDI値が20ポイント近く悪化し▲80ポイント台まで悪化している。

(飲食・サービス業)

売上、業況、従業員は改善し、特に売上はDI値が10ポイント以上改善しDI値もプラス20ポイント台までに回復している。一方、採算、

仕入単価、資金繰りは悪化し、特に採算、仕入単価はDI値が20ポイント以上悪化し、仕入単価は▲70ポイント台まで悪化している。

(不動産・その他)

仕入単価はDI値が30ポイント以上改善しているが、▲60ポイント台と依然としてマイナスポイントが高くなっている。一方、業況、資金繰りではDI値が▲50ポイント台、採算ではDI値が▲40ポイント台まで悪化している。従業員では、DI値がプラス40ポイント台まで悪化し人手不足感がさらに強まっている。

【質問 A】 12月と比較した1月～3月の先行き見通しについて

	項目	増加・好転	不変	減少・悪化	合計	DI値	前回DI値	対比増減
全体	売上	12	38	29	79	▲21.5	▲12.2	▲9.3
	採算	6	37	34	77	▲36.4	▲23.2	▲13.2
	仕入単価	0	32	45	77	▲58.4	▲65.4	7.0
	従業員	36	41	1	78	44.9	36.1	8.8
	業況	10	45	25	80	▲18.8	▲30.1	11.4
	資金繰り	2	58	19	79	▲21.5	▲15.7	▲5.8
建設・建築業	売上	1	11	6	18	▲27.8	▲12.5	▲15.3
	採算		11	7	18	▲38.9	▲17.6	▲21.3
	仕入単価		7	10	17	▲58.8	▲76.5	17.7
	従業員	10	7		17	58.8	47.1	11.7
	業況	1	14	3	18	▲11.1	▲5.9	▲5.2
	資金繰り		16	2	18	▲11.1	0.0	▲11.1
製造業	売上	2	1	5	8	▲37.5	▲33.3	▲4.2
	採算	1	1	5	7	▲57.1	▲36.4	▲20.7
	仕入単価		2	6	8	▲75.0	▲50.0	▲25.0
	従業員	3	4	1	8	25.0	33.3	▲8.3
	業況	1	2	5	8	▲50.0	▲50.0	0.0
	資金繰り		6	2	8	▲25.0	▲41.7	16.7
卸・小売業	売上		9	7	16	▲43.8	7.1	▲50.9
	採算	1	7	8	16	▲43.8	7.1	▲50.9
	仕入単価		6	10	16	▲62.5	▲71.4	8.9
	従業員	7	9		16	43.8	42.9	0.9
	業況		9	7	16	▲43.8	▲28.6	▲15.2
	資金繰り		12	4	16	▲25.0	▲21.4	▲3.6
飲食・サービス業	売上	6	9	3	18	16.7	▲5.3	22.0
	採算	2	11	5	18	▲16.7	▲15.8	▲0.9
	仕入単価		10	7	17	▲41.2	▲44.4	3.2
	従業員	6	12		18	33.3	42.1	▲8.8
	業況	5	10	3	18	11.1	▲21.1	32.2
	資金繰り	1	14	3	18	▲11.1	5.3	▲16.4
不動産・その他	売上	3	8	8	19	▲26.3	▲19.0	▲7.3
	採算	2	7	9	18	▲38.9	▲47.6	8.7
	仕入単価		7	12	19	▲63.2	▲80.0	16.8
	従業員	10	9		19	52.6	19.0	33.6
	業況	3	10	7	20	▲20.0	▲47.6	27.6
	資金繰り	1	10	8	19	▲36.8	▲28.6	▲8.2

(全体)

仕入単価、業況では改善する見通しであるが、仕入単価は依然としてDI値は▲60ポイント近くとマイナスポイントが高くなる見通しである。一方、採算ではDI値は10ポイント以上悪化し▲30ポイント台まで悪化する見通しである。また、従業員では、DI値がプラス40ポイント台までとなり、人手不足感がさらに強まる見通しである。

(建設・建築業)

仕入単価はDI値が20ポイント近く改善する見通しだが、依然として▲60ポイント近くとマイナスポイントが高くなる見通しである。一方、採算はDI値が20ポイント以上、売上、従業員、資金繰りはDI値が10ポイント以上悪化する見通しである。特に、従業員ではDI値がプラス50ポイント台までとなり、さらに人手不足感が強まる見通しである。

(製造業)

従業員、資金繰りは改善する見通しである。一方、採算、仕入単価はDI値が20ポイント以上悪化し、採算では▲50ポイント台、仕入単価は▲70ポイント台までと大幅にマイナスポイントが高くなる見通しである。

(卸・小売業)

仕入単価は改善する見通しだが、DI値は▲60ポイント台と依然としてマイナスポイントが高い見通しである。一方、売上、採算はDI値が50ポイント以上悪化し、DI値もプラスからマイナスに転じる見通しである。また、業況はDI値が10ポイント以上悪化し▲40ポイント台まで悪化する見通しである。

(飲食・サービス業)

売上ではDI値が20ポイント以上、業況ではDI値が30ポイント以上と大幅に改善し、プラスに転じる見通しである。仕入単価では若干改善する見通しだが、依然としてDI値は▲40ポイント台とマイナスポイントが高くなる見通しである。一方、資金繰りではDI値が10ポイント以上悪化しマイナスに転じる見通しである。

(不動産・その他)

従業員ではDI値が30ポイント以上悪化し、プラス50ポイント台までとなり人手不足感がさらに強まる見通しである。一方、仕入単価ではDI値が10ポイント以上、業況ではDI値が30ポイント近く改善する見通しだが、仕入単価は依然としてDI値が▲60ポイント台とマイナスポイントが高くなる見通しである。